

小学校教師による小4総合的学習の教材研究—2枚の写真を通して

## 10年後も残しておきたい私達のふるさと

作成：鶴尾由美（つるお ゆみ／京都府南丹市立八木小学校 教諭）

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）\*



◀写真① みんなの大好きな学校林

語り：「これは、みんなのよく知っているみんなの大好きな学校林です。教室からも見えています。1, 2年生の頃はいろいろなことを体験するために出かけましたね。山の中の木に登ったり、ターザンごっこをしたり、木の実を拾ったりしましたね。すぐ近くにはみんなが虫とりに行く峠もあります。

この春、そこでモリアオガエルの卵も見つけました。あの峠や学校林を独りで歩いてきました。じっと立ち止まると山の風が頬をかすめていきました。心を落ち着けて耳を澄ますと鳥の音が聞こえてきました。大きく息を吸い込むと土のおいがしました。木々の間からは、キラキラと木洩れ日が差し込んでいました。ほんの数分歩いただけ

でとても<sup>すがすが</sup>清々しい気持ちになれました。

この山は、何年も前から小学校のみんなの成長を見守り続けているのです。みんなのお父さんやお母さんもここで遊んでおられたかもしれませんね。実はこの山は、ここの自治体の方々が小学生のためにずっと貸して下さっているそうです。そして、何年も学校林として使えるように手入れもして下さっているのです。もしかしたら、みんなの子どもがここで遊ぶことになるかもしれませんね。そのために、自分にできることはないか、一緒に考えていきましょう。」

語り：「これは、モリアオガエルの卵を見つけたときの写真です。みんなの大好きな学校林のす



◀写真②  
モリアオガエルの卵を見つけたよ

ぐそばにありましたね。この卵をみんなに見せるために、近くに住んでいる子がみんなを案内してくれました。とにかく、すごいものを見ただとみんなが喜ぶことができました。

モリアオガエルのことを調べてみました。天然記念物に指定されているカエルで、日本で唯一、木で卵を産むカエルです。卵の下に水たまりのようなものがありました。なぜでしょう？それは卵から産まれたオタマジャクシが自然に下に落ちてそこで成長していくためです。その水たまりはどのようにしてできたと思いますか？山の水が自然

にたまったのです。とてもきれいな水です。みんなの住んでいるすぐそばにはこんなに素晴らしい場所があるのです。

2週間後、もう一度モリアオガエルの卵を見に行きました。どうなっていたと思いますか？下の水たまりでかわいいオタマジャクシが元気よく泳いでいました。そのオタマジャクシが大きくなって、また、この山のどこかに卵を産んで子孫を残していける、これからもずっとその命がこの山で受け継がれていくことを強く願いながら、その場所をあとにしました。」

**意図（鶴尾）：**子ども達の周りには、当たり前のように里山があり、木々や竹藪たけやぶなどがあふれている。そこにある身近な自然を改めて見直す機会を意図的に作れば、何度も足を運ぶことができ、四季を感じながら、多くのことを発見し、感じるができると考えた。

テーマは「10年後も残しておきたい私達のふるさと」としたが、子どもからは、『20年後、30年後も残っていてほしい…』という声が出てきた。その気持ちを出発点とし、願うだけではなく、自分にできることが何かないかを考えるきっかけになればと思う。実際にはどんなことが行われているのか、どんな願いがあるのか、学ぶことがたくさんあるのではないだろうか。更に、地元の山だけではなく、もっと、視野を広げて考えてくれればと思っている。

**寸評（山下）：**森林環境教育では、学校林や学校近くにある里山の活用が重要となる。これらの森林は、「体験の場」として、「知る場」として、さらに「かかわる場」として成立させなければならない。こうした身近なところにある森林への関心や問題意識は、日本や世界の森林の問題をとらえ、その問題の解決のためにどうするのかを考え、行動するための土台といえるものである。今回の教材のように、身近なところにある森林に子どもたちの視線をいつも向けさせていくことが大切となろう。